



「持続可能な社会をつくる生活経営学」

編集：(一社) 日本家政学会生活経営学部会
(朝倉書店, A5判／200頁, 本体2,700円+税, 2020年9月1日発行, ISBN 978-4-254-60025-4)



本書は、(一社) 日本家政学会生活経営学部会50周年を記念して刊行された。10年ごとに部会の研究成果に基づく書籍を発行しているが、本書はこれまでの部会活動の努力の結集といえよう。

生活経営は時代とともに変化していくが、これからの生活経営の目標は、持続可能な社会の実現を目指すことであると考え、全体を貫くキーワードとして展開している。持続可能性のある生活、そして持続可能な社会の構築のために、生活者が社会に与える・社会から受ける影響とはどのようなものか、また、人生100年時代における生活経営のありかた

も示している。

本書は、4部から構成されている。第1部「生活の経営」では生活の枠組みや生活経営の方法・研究について、第2部「生活の組織と地域」では、家族を中心に生活の組織や地域社会の取組みの現状とともに、家族に関連する法律について説明している。第3部「生活をとらえる」では、生活時間、家計、人間関係、生活行為・活動、生活手段などの視点から、生活の実態を確認している。また、生活実態をとらえる手法として有効性があるとされるケイパビリティ・アプローチを取り上げ、生活行為・活動・機能の内容を検討するワークショップの実施方法など、生活・社会の評価について具体例を用いて解説している。第4部「これからの時代を生きる」では、職業労働、家事労働、生活保障・福祉、消費者問題・環境、生活設計などについて、実態とともにこれから的生活を展望している。

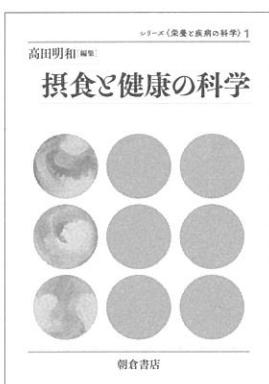
これから生活経営学を学ぶ学生にとって、生活経営学の理論と方法を体系的に学べる教科書として薦めたい。かつて生活経営学を学んだ人にも、生活経営学の最新の内容を学び直す1冊となるであろう。

(編集委員 ガンガ伸子)



「栄養と疾病の科学1 摂食と健康の科学」

編集：高田明和
著：高田明和・樽野陽幸・山本 隆・箕越靖彦・
渡邊 昌・香川靖雄・小川睦美・石井幸江・高尾哲也・
清水史子・西条寿夫・小野武年・酒井晃二・中前 貴・
飯田直子・安池政志・山田 恵
(朝倉書店, A5判／272頁, 本体4,500円+税, 2020年2月1日発行, ISBN 978-4-254-36185-8)



食を専門とする者であっても、「食べる」という行為がどのように成立しているのかを日々考察することは少なく、その営みを毎食、自然にこなしている。

本書は、そのような専門家の新たな関心を誘い、探究心を喚起する1冊である。生きるために食、食べたいという欲求を満たすための食、さら

にその付加価値となる「おいしい」のメカニズム、摂食や栄

養状態にかかる疾患や脳の機能との関係などについての知見が手際よくまとめられている。編者は食と脳との関係を長年研究してきた高田明和氏であり、味覚や摂食の各分野の第一線で活躍する研究者が執筆に加わっている。

コンテンツは、「肥満の予防と治療」、「味覚の受容」、「味覚情報の伝達と中枢処理」、「空腹感と満腹感」、「食と栄養・腸内細菌との共生」、「精神栄養学からみた食」、「ブドウ糖・ショ糖と脳機能」、「糖質と健康」、「摂食行動の調節」、「画像による摂食異常の解析と臨床応用」から構成されている。味覚や摂食に関する研究の歴史的な背景から生理学的な基礎知識、最新の知見までが、エビデンスに基づいて論じられている。多くの文献が参照されていることも特徴であり、本書を足がかりに摂食についてさらに深い知識を得ることもできる。

初学者にはやや高度と感じられる記載も一部みられるが、味覚や摂食に関する研究者ばかりではなく、これからこの分野を学びたいと考えている若手研究者や学生にとっても、医学的、栄養生理学的な見地から「食べる」という行為について幅広く学ぶことができる好著である。

(編集委員 小長井ちづる)